

18 クルマエビ

(クルマエビ科)

兵庫県ランク:C

Penaeus japonicus

環境省ランク:指定なし

種の概要

北海道南部以南に分布する。体長250mm。水産資源として古来より利用されており、各地で種苗放流も行われている。成体は主に浅海域の砂底に生息するが、幼体は砂泥質から砂質の干潟で過ごす。腹部の特徴的な帯状の横縞模様は干潟で見られる幼体では薄い。額角の上に9~10の歯、下に1つの歯を備える。同様の額角の歯の構成をもつ近似種としてフミゾエビがあるが、県内の干潟で見られることは極めて少なく、また、腹部に帯状の横縞模様をもたない。

主要な選定理由

| 人為性 | | | 生息環境の特殊性 | | 学術性 | | |
|-------|--------|--------|----------|-------|-------|-------|----|
| 個体数激減 | 分布域に影響 | 営利目的捕獲 | 特殊生息環境 | 地域的孤立 | 分布が極限 | 分布の限界 | 希少 |
| | ○ | ○ | | | | | ○ |

県内分布

加古川市、高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。本県では、播磨西部を中心に種苗放流が行われている。未成熟個体が前浜干潟や河口の砂質干潟で見られる。潮間帯での記録としては加古川以西で確認されている。

保護上の留意点

本種の若齢個体は干潟域に生息する。水産資源として今後も持続的に利用するためには、資源管理を適正に行うだけでなく、河口域から前浜干潟に至る、まとまった単位での干潟域の保全が不可欠である。



写真提供：増田修



【執筆者】 渡部哲也